

「教員免許更新講習」

1. 参加者

| 募集人数 | 応募者数 | 参加決定数 | 参加者数 |
|------|------|-------|------------------|
| 20 | 9 | 9 | 福井9（1日目9人 2日目5人） |

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・体験活動の意義や効果を理解するとともに、実際の自然体験活動を通じて安全に配慮した指導法を体得する。国立若狭湾青少年自然の家の立地・環境を生かした特徴的な体験活動を通しての講習を実施する。
- ・体験活動としてシーカヤックとスノーケリングを予定しているが、荒天時等で実施できない場合は、「活動プログラムの立案に関する演習」または「安全管理に関する演習」を実施する。

◆期日・期間

- 2014年 10月25日（土） 学習指導・学級経営に生かす体験活動Ⅰ
 2014年 10月26日（日） 学習指導・学級経営に生かす体験活動Ⅱ

◆参加者分析

- ・小・中学校、高等学校や特別支援学校から9人の申込みがあった。
- ・30代～50代まで幅のある年齢構成となった。

◆企画のポイント

| | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|-----------|---|---|----|---|----|-------|--|----|----|------|-----------|
| 10月25日（土） | | | 受付 | 開講式 講義 学習指導・学級経営に生かす体験活動Ⅰ 福井大学 稲垣 良介 氏 | | 昼食・休憩 | 実習 「自然体験活動の技術と安全管理」 シーカヤックを使って 若狭湾 企画指導専門職 | | | 評価試験 | 諸連絡 解散 |
| 10月26日（日） | | | 受付 | 開講式 講義 学習指導・学級経営に生かす体験活動Ⅱ 福井大学 杉山 晋平 氏 | | 昼食・休憩 | 実習 「自然体験活動の技術と安全管理」 スノーケリングを通して 若狭湾 企画指導専門職 | | | 評価試験 | 閉講式 解散 |

講 師 福井大学大学院教育学研究科准教授 稲垣 良介 氏
 福井大学大学院教育学研究科特命助教 杉山 晋平 氏
 国立若狭湾青少年自然の家
 主任企画指導専門職 細井 貴

◆運営のポイント

- ・学校生活における「野外活動」の安全性と、子どもたちの成長を促すための支援のあり方をそれぞれの日程で理解していただけるように構成すると共に、講義の中ではグループ討議等も取り入れ、積極的に講座に参加できるように配慮した。
- ・シーカヤックやスノーケリングを体験では、子どもたちの解放感や体験に潜む危険性につ

いて理解していただくように配慮した。また、自らが指導するにあたって、それぞれの活動をどのようにとらえたかを意見交流し、「自分だったら」という視点を常に持っていただくように配慮した。

- ・各学校での自然体験活動での運営者となることから、道具・資材の準備・後片付けの一切を含めての活動内容とした。

◆安全管理のポイント

- ・普段子どもたちが行う活動を、忠実に再現し、常に安全管理者として心がけるべきことを意識しながら活動できるように支援すると共に、安全監視する人員を増やし周囲の状況や参加者の体調管理、天候の様子などをいち早く情報共有出来るように配列した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

| 参加者 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|-------------------|------|----|----|----|
| 事業全体をとおしてどうでしたか | 100% | 0% | 0% | 0% |
| この事業のプログラムはどうでしたか | 100% | 0% | 0% | 0% |
| この事業の運営はどうでしたか | 100% | 0% | 0% | 0% |

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・講義、グループでの討議、演習という内容で、学習意欲を持続させながら受講することができて、大変良かった。(25日)
- ・講習のねらいや目標が明確であり、ポイントをわかりやすくまとめて伝えていただけた。(25日)
- ・もし、自分がその立場だったらと考える機会が多くあり、とても勉強になりました。(26日)
- ・今後もぜひ続けていただきたい。(25日、26日)
- ・内容的にも特別なハードルがなく、高齢のものでも無事終わることができた。特に非日常の活動体験は、印象強いものがある。(26日)

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・事前に福井大学側と場の設定や講座の進め方などを綿密に打合せ、進行に応じた時間配分をその都度調整できたことにより、参加者にとって充実度や満足度の高い事業となった。また大学スタッフに元本施設職員が関わり、大学と施設との連絡調整がしやすかったため、互いの負担を分担し合い、ストレスのかからない事業にもなった。
- ・受講者が比較的高齢となり、演習ではそれなりの抵抗感があるかと予想していた。特に土日の講習ということ、10月末という時期から仕方なく参加した受講者もいて、当初は意欲のばらつきを危惧していたが、天候にも恵まれ、とても意欲的に参加された。福井大学の話では、これだけ参加者からの評価が高い講習は無いということであり、今後の継続実施を強く望まれている。
- ・それぞれの参加者が、「現場で指導するにあたって」という視点をもって参加できるように事前にレポート作成を依頼していた。そのため講習の目標が明確となり、課題意識をもって受講できた。その効果も大きく、具体的に指導方法や安全管理、教師としてのあり方についても考える良い機会となった。

(2) 課題

- ・参加人数が少ない。福井大学との総括では、「講座のタイトルがわかりにくい」「HPで閲覧しづらい」といった課題があげられ、ストレートに「シーカヤック」「スノーケリング」を入れるべきということになった。また嶺南地域に先生方にもっと強くアピールできるように大学と連携することが求められる。
- ・10月末の時期はどうしても水温も低く、特にスノーケリングでは寒さを感じた。福井大学の日程との調整にもよるが、実施時期の見直しが今後必要となる。

5. 活動の様子

25日 学習指導・学級経営に生かす体験活動Ⅰ



26日 学習指導・学級経営に生かす体験活動Ⅱ

